

# 自己評価票

## 地域密着型サービス自己評価項目

### (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

#### 【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。  
 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係  
 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係  
 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援  
 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用  
 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。  
 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援  
 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  
 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援  
 項目番号61 ○日常的な外出支援  
 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援  
 項目番号63 ○電話や手紙の支援  
 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

#### 【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名

医療法人 ささうち内科クリニック  
グループホーム ぶなの森

(ユニット名)

1階

記入者(管理者)  
氏名

渡久地 真由美

評価完了日

平成20年 1月13日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年度の外部評価改善項目であった。「地域密着型サービス」とはどのようなことなのかを、管理者はじめ職員一人ひとりが考え”その人らしく、地域で暮らすことの継続支援”について理念の再共有化を図り目標を掲げ取り組んでいる。	○  地域との関係が途絶えることなく、その人らしい生活が継続できるよう支援していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例会議や日々の業務の中で、理念に基づいたサービス提供が実践されているか確認し共有が図れるよう取り組んでいる。また、新人職員採用時には、法人及びグループホームの理念を伝え理解してもらっている。	○  職員一人ひとりが理念に基づいた姿勢で関わりが持てるよう今後も努力していく。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族様には入所契約時に説明している。また来訪者にも浸透できるよう玄関先に掲示。地域住民の方には運営推進会議への出席を依頼し施設の理念が浸透できるよう協力を求めた。	○  地域の方々に更なる理解を得る為に、広報誌の回覧を行っていく。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	行事等への参加やボランティアを依頼している。散歩や畑に出かけるときには声の掛け合いを大切にしている。少しずつではあるが立ち寄って頂けるようになった。	○  もっと交流が図れ、気軽に立ち寄れるよう考えて行きたい。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域小学生・中学生との交流を継続している。施設側からも行事に招いたり、または入居者様と学校の行事に出向いたりしている。町内会に加入し地区の清掃活動や芋煮会、盆踊り大会にも参加し交流に努めている。	○  今後も地域の方々との交流を図っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	小中学生の交流学習・職場体験を積極的に受け入れている。 管理者がキャラバンメイトに登録しており、職員全員がサポーターとしての役割を担っている。	○	地域の高齢者の暮らしに役立つ事がないか、職員全員で話し合い取り組んでいきたい。地域の高齢者を中心にいつでも相談して頂ける体制に取り組みたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を職員は理解している。昨年度の評価結果を基にリーダー及び各委員会にて具体的な改善策を見出し改善に取り組んでいる。	○	ケアの向上に繋げていくために、現状に満足せず更なる改善策を見出していくと共に、常に問題意識を各職員がもっていけるよう努めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、取り組み状況や今後の予定などを報告し施設の現状を把握していただいている。ヒヤリハット、自己・外部評価結果もお伝えし、意見をいただきながら改善に向け努力している。昨年度、委員メンバーや議題の拡充が求められたが、家族代表以外にも参加を募っている。	○	行政側へのアピールや要望、また地域とグループホームの関係がより深くなり、協力体制の確保がスムーズに行えるよう相互の意見を反映させ、サービス向上に努めていく。
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年度より、市が主催する福祉フェスティバルに協力し市民の方々にグループホームについて説明し情報提供する。管理者が市のキャラバンメイトに登録しており、依頼があれば出張講座を行っている。	○	今後も行政側の協力依頼には随時協力していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や一部職員は学んでいるが、それ以外の職員は制度に乏しい。現在、必要な方は存在しないが必要と考えられた時には活用できるよう支援していく方針である	○	機会があれば、順次、研修参加を促す。また、施設内研修においても学ぶ機会を設定する。
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一部の職員については学ぶ機会がある。それを会議の場において伝達できるよう工夫している。全てを理解しているとは言えないも虐待の有無に関しては注意を払いながらケアにあたっている。	○	順次、施設外の研修には参加を促していく。また、施設内研修の場において”高齢者虐待法”について学ぶ機会を設定していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>継続し対応していく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>入居者様の声を逃すことなく拾い、それを基にサービスの質の向上を目指していく。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	○	<p>スタッフより紙面及び面会時に近況報告をしている。入居者様の前で伝えにくい事等は周囲に配慮しながら詳しく説明していきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>家族会で活発な意見が出されるよう、雰囲気作りと信頼関係の構築を今後も強化していきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	<p>全体会議の場にて、職員の意見や考え方等を聞き出している。年1～2回個人面談を行なっていく。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>今後も入居者様に支障が出ないよう、状況に合わせて、適切な職員配置であるか検討しながら調整していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や移動の時は、入居者様に混乱が起きないように申し送りや引継ぎを担当者同士で行う一方、他職員も入居者様の直後の精神面の安定が図られるよう支援している。		継続し対応していく。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、段階に応じ参加している。参加者は施設内研修にて発表し他職員への啓発も行っている。		職員一人ひとりのスキルアップが図られるよう今後も外部研修会に参加していく。また、職場ではOJT活動が活発化し相互啓発に努める。
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入会しており、外部研修会等で情報交換の場を得ている。	○	他施設見学を取り入れた研修会を企画し、サービスの質の向上を図っていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人交流会などで職員間の話し合いの場が設けられている。休憩室も設けられ心身ともに安らげる環境が整備された。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	外部研修への参加を促し、各自が向上できるよう配慮している。また、専門的な立場からの助言が随時あり職員の教養を高めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)	/	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様に”教えて頂く”場面を意図的に設定することに配慮している。日々の生活を共に送っていく上で、支え、支えあう関係作りを大切にしている。	支え、支えあう関係作りを継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へ、生活の様子を報告する事で情報の共有を図り、ケアプラン立案を行っている。ご家族様の役割も組み入れ協力し支えていけるよう配慮している。		共に支えあえるよう、ご家族様の協力を得ながらご本人を尊重したケアプランを立案していく。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事等への参加を促したり、ご本人直筆の葉書を送ること等でよりよい関係が継続されるよう支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同窓会参加の支援やサービス事業所への訪問、通信手段など、馴染みの方との関係が途絶えないよう支援している。		継続し支援して行く。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様同士、お互いに助け合い、労わりあっている場面が日々の生活から伺える。一人ひとりの意思も尊重しながら関係が保てるよう支援している。		継続し支援して行く。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	転居先に訪問したり、またご家族様には退居後も相談可能な体制であることを伝えている。		継続し対応していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の日々の行動や言動を観察し、時にはご家族様に代弁者となって頂きながら本人の立場になり意向の把握に努めている。	ご本人の希望や意向を把握し、ご本人らしさが発揮できるよう支援して行く。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や入居者様との会話の中から情報を得ながら、ケアプランに反映している。	ご家族様、職員間で情報を共有し検討していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者様に対して、職員の担当を置いたり、個人記録を通して現状を把握できるよう努めている。また、センター方式の必要な項目のシートを活用しつつ把握するように努めている。	気になったこと等、ちょっとした気づきも記録に記入し変化を見逃さないよう努めている。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者様、ご家族様の話を聞きケアプランに反映させている。主治医への意見も求め、全ての職員から意見が出されるよう工夫し定期的なカンファレンスを実施している。	○ ご本人様の変化を見逃さず、ご本人本位のケアプランを提供していく。職員は、センター方式アセスメントについて熟知し活用していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行っている。状態変化時には、その都度見直しをし計画変更を行っている。	今後も継続し、状態に沿ったケアプランを立案していく。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活が分かるよう、個別ファイルを記録し情報が共有できるよう努めている。	○	記録の重要性を再認識し、情報の共有化を図りながら実践に取り組むことを継続していく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)	/		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小中学生との交流事業や地区で行われる催しに参加している。夏祭りや畑作業にボランティアを依頼し協力を求めた。	○	現状を継続しつつ、更にボランティアの協力が得られるよう働きかけをしていく。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者様の意向や要望に応じ、訪問理美容サービス等が受けられるよう支援している。		継続し対応していく。
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じた対応が取れるよう連携の強化に努めている。	○	地域の認知症高齢者の支援、具体策を検討し協働しながら地域住民への理解と協力が得られる体制作りに取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		継続し対応していく。
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		継続し対応していく。
45			
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		継続し対応していく。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	定期的に学ぶ機会を設け、職員間の意志の統一を図っていく。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	同上。外部研修への参加も促していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居先で混乱を招かないよう、ご本人・ご家族様・ケアマネジャー・サービス事業者との話し合いを十分に持ちダメージが最小限に抑えられるよう努めている。		継続し対応していく。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者様一人ひとりのプライバシーに配慮し、全職員が尊厳を守った対応をするよう心がけているが、時として配慮に欠けた対応になってしまう事もある。記録保管には充分留意し委員会が中心となり保管管理に努めている。	○	一人ひとりのプライバシーが保たれるよう言葉かけや対応について職員間で注意刺激し合い、入居者様の尊厳を守った対応をしていけるよう職員一人ひとりが意識を持つ。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者様の心身状態のレベルに合わせ、ご本人の意思を尊重し、自己決定できるよう工夫しその人らしい暮らしが送れるよう支援している。	○	ご本人の思いがうまく引き出せるよう、職員が本人のペースに合わせて自己決定できるよう導き支援していく。
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが自分のペースで毎日を過ごせるよう、極力要望に応じた支援を行っているが、時として職員の都合で希望に添えないこともある。	○	日々の暮らしの中で、入居者様それぞれの趣味や楽しみをもっと取り入れ、生き生きと生活できるよう支援して行く。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	維持する事が困難な方へは、ご家族様に衣類を選んでいただいたり、以前着用していた物や身につけていた化粧品などを持参していただきご本人らしさが出せるよう支援している。理美容店にはご本人の行きたい場所へ行けるよう努めている。		今後も本人の希望に添った支援ができるよう努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは、入居者様個々の力を活かしながら共に行なっている。入居者様自身で店で購入した食材、畑で収穫した野菜などを調理し食べる事により”食”への喜びを感じ取って頂いている。	○	メニュー作りにもっと入居者様の意見や要望を取れいれていく。気分転換のために出前や外食の機会も増やしていく。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	疾病による食事制限などの把握に努めながら、ご本人の好きな物は、極力ご本人に選んで頂き購入している。		継続し対応していく。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンに変化があった時には、職員間で検討し適切な対応がとれるよう支援している。		今後ご本人の身体状況、排泄パターンの把握に努めながら気持ちよく排泄ができるよう支援していく。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居様の希望する時間帯や曜日に必ずしも入浴できているわけではないが、職員は極力、要望に沿えるよう配慮している。		安心して入浴が楽しめ、リラックスできるよう入浴時間を大切にしている。入居者様も職員と一対一という事もあり本音を語り合える場所ともなっている。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない入居者様に対して、室内環境にも配慮しつつ、話をよく伺い安眠に繋がるよう支援している。		継続支援し、日中の活動を多く取り入れる事で夜間の安眠に繋げていく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	入居者様一人ひとりが役割と責任を持って生活を送っている(調理準備、掃除、洗濯、新聞や郵便物の確認等)。職員は必ず感謝の言葉を述べるようにし、張り合いが損なわれないよう支援している。共同生活を送っていく上で入居者様同士の助け合いがあり張りのある生活が送られている。		仲間意識が低迷しないよう入居者様同士の関係を保ちながら、楽しみや張り合いがあり助けあって生活する事を継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	自己管理出来るような入居者様に対し、所持して頂く方向で試みたがご本人が不安だというケースがあった。買い物時にはご自分で金銭の支払いができるように支援しているものの管理は施設で行っている。		ご本人・ご家族様と相談しながら金銭管理ができるか見極め支援していく。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	日常的に、ご本人の希望や状態に合わせて買い物や散歩、地区のイベントなどに出かけている。		出かけたときに出かけるということを継続していく。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	ご家族様の協力も得つつ、自宅や同窓会、舞踊観覧、墓参りなど、普段行けない場所へいける様支援している。		ご本人の要望をくみ取りながら、今後も要望に沿える対応をしていきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	プライバシーに配慮しながら、電話を取り次いでいる。希望があれば随時通信作成のお手伝いをさせて頂いている。		継続し対応していく。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	面会時間外でも、臨機応変に対応している。来所しやすい雰囲気作りに努めている。またご家族様が気軽にいつでも宿泊できる体制を確保している。		継続し対応していく。気兼ねなく来所、宿泊が可能な体制を崩さない。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一部の職員が外部研修に参加している。研修報告にて勉強会を実施し拘束について理解・知識を深めている。言葉の拘束については職員間で話し合えるよう職場の環境づくりに努め拘束のないケアに取り組んでいる。	○	外部研修会の参加を継続し、“拘束とはなにか”を職員一人ひとりが考えていく一方、拘束のないケアを全員で取り組んでいく。


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		<p>継続し対応していく。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		<p>プライバシーに配慮しながら、入居者様の所在や様子を確認し安全に過ごせるよう努めていく。</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		<p>一人ひとりの状態を見極めながら危険防止に取り組む。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	<p>事故防止検討会の継続。職員一人ひとりが常にリスクを考えながらケアサービスを実践していく。また、外部研修会への参加を促していく。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>施設内研修にて知識・技術を高める一方、関連の外部研修への参加も行っていく。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>運営推進会議を通し、地区協力者を確保しつつ、定期的に避難訓練・消防訓練を行う。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	起こりえるリスクについて、ご家族様に状況説明し対応策を共に検討している。	○	個々の身体・認知度レベルを把握しご家族と相談しながら事故が未然に防げるようにする。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状態把握に努め、変化が確認された時には、NsやDrに連絡し指示を仰いでいる。また、職員間で情報の共有が図られるよう申し送りを徹底している。		継続し、Dr, Nsへの連携を図っていく。
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法や用量、副作用について職員は把握するよう努めている。(服薬ファイルを作成し随時確認している)処方箋の変更や臨時薬の処方があった時にはきちんと申し送りがされ、一般状態の観察を行っている。		継続し、服薬に関する事柄について把握すると共に服薬ミスが発生しないようルールをきちんと守っていく。
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者様一人ひとりの排便状況の把握を行っている。NSによる排便コントロールも適切に行われている。自然排便を誘発するため、水分量や食事内容に気を配りつつ身体を動かしていけるよう取り組んでいる。		今後も継続していく。
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きを促し、夜間帯は義歯消毒を行っている。また、義歯や口腔内に異常が生じた場合は、早急に歯科医への受診など行っている。		今後も継続していく。
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量の把握を徹底している。適切な量が摂取できない入居者様に対して、代替品などを用いるなどの工夫をしている。		個々の状態に応じた支援を継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症衛生マニュアルにより、予防に努めている。うがいや手洗いの施行、備品などの消毒に心がけている。		感染症が発生しないよう手洗い・うがい・消毒・食品保存などには十分に注意していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	給食委員会を中心に台所、調理器具の衛生管理に努め使用後の衛生管理について徹底している。		継続し対応していく。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に草花を植えたり、季節の飾り物をかけたりと一般家庭の玄関先と同じような工夫をしている。		草むしりや草木の手入れを入居者様と共に行っている。温かみのある屋外環境に取り組んでいく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・壁などに入居者様が描いた絵や壁画などを飾ることにより季節感を演出している。共有のリビングは陽ざしがあり居心地のよい空間となっている。四季の花々や音響にも配慮している。		ゆったりと過ごして頂ける空間作りに配慮する。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様一人ひとりがご自分の空間を確保しているが、気分により好きな場所に自由に座ることもお互いが認めている。ソファを増やしくつろげる場所を多く確保した。		継続し家庭的な雰囲気が出せるよう環境整備をする。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		<p>ご本人と相談しながら、居心地よく暮らしていける居室作りに配慮する。</p>
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		<p>今後も換気・空調に配慮していく。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		<p>ご本人の状態にあった代替品の活用を今後も検討しながら自立した生活が送れるよう支援する。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		<p>ご本人と相談しながら環境づくりを進めていきたい。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている</p>		<p>屋外活動が楽しく行えるよう安全性に配慮していく。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他( )
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他( )
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他( )
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他( )

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ( )
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ( )

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・医療連携が図られており、DRやNsにいつでも連絡できる体制が確保されており入居者様、職員に安心感があります。
- ・職員は”ゆとり”を大切に日々のケアを提供しています。忙しくても忙しさを表に出さないよう歩き方や動きに工夫しています。
- ・地域との交流を大切にしながら、入居者様の生活が活性化されるよう取り組んでいます。
- ・管理者、職員は相互啓発を意識し、サービスの質の向上が図られる努力をしています。

# 自己評価票

## 地域密着型サービス自己評価項目

### (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

#### 【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。  
 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係  
 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係  
 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援  
 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用  
 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。  
 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援  
 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  
 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援  
 項目番号61 ○日常的な外出支援  
 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援  
 項目番号63 ○電話や手紙の支援  
 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

#### 【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名

医療法人 ささうち内科クリニック  
グループホーム ぶなの森

(ユニット名)

2階

記入者(管理者)  
氏名

渡久地 真由美

評価完了日

平成20年 1月 15日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域密着型サービス」の意味を管理者はじめ職員一人ひとりが考え「地域で暮らすことの継続支援」について理念の再統一を図り、職員と管理者一丸となり目標に向けて実践し取り組んでいる。	○  地域との関係が途絶えることなく、その人らしい生活が継続できるよう支援していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例会議や日々の業務の中で、理念に基づいたサービス提供が実践されているか確認し共有が図られるよう取り組んでいる。また新人職員採用時には、法人及びグループホームの理念を伝え理解してもらっている。	○  更なる意識向上を目指し、日々の実践に向けミーティング時に全員で唱和する。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族様には、入所契約時に説明している。また来訪者にも浸透できるよう玄関先に掲示。地域住民の方には運営推進会議への出席を依頼し施設の理念が浸透できるよう協力を求めた。	○  地域の方々に更なる理解を得る為に、広報誌の回覧を行い、施設行事への招待などに取り組んでいきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩に行く際や近所にある畑への外出の時など挨拶を交わしたり話をしている。また、地域の小学生が休日に来訪している。よく買い物に行く店員さんと顔なじみになっている。	○  気軽に立ち寄れる環境をつくり、隣近所との関係を深めていく。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域小学生・中学生との交流を継続している。施設側からも行事に招いたり、または入居者様と学校の行事に出向いたりしている。町内会に加入し地区の清掃活動や芋煮会、盆踊り大会にも参加し交流に努めている。	○  今後も地域の方々との交流を図っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	小・中学生との交流学习・職場体験を積極的に受け入れている。管理者がキャラバンメイトに登録しており、職員全員がサポーターとしての役割を担っている。	○	身近な町内会住民を対象とした事業所独自の「サポーター養成講座」を開催していきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を一人ひとり理解している。昨年度の評価結果を基にリーダー及び各委員会が中心となり具体的改善策を見出し改善に向け取り組んでいる。	○	サービスの質の向上に繋げていく為に、現状に満足せず常に問題意識を持ちながら改善に向け取り組んでいく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ユニット毎の取り組みや予定などを報告。ヒヤリハット、自己・外部評価結果もお伝えし意見を頂きながら改善に向けた努力をしている。昨年度、委員メンバーや議題の拡充が求められたが、家族代表以外への参加も募り、議題設定に考慮しながら進めている。	○	行政側へのアピールや要望、また地域とグループホームの関係がより深くなり、協力体制の確保がスムーズに行えるよう相互の意見を反映させ、サービス向上に努めていく。
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年度より、市が主催する福祉フェスティバルに協力し市民の方々を対象にグループホームについて説明し情報提供する。管理者が市のキャラバンメイトに登録しており、依頼があれば出張講座を行っている。	○	今後も行政側の依頼には随時協力していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や一部職員は学んでいるが、それ以外の職員は制度に乏しい。現在、必要な方は存在しないが必要と考えられた時には活用できるよう支援して方針である。	○	機会があれば、順次、研修会参加を促していく。また、施設内研修会においても学ぶ機会を設定する。
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一部の職員については学ぶ機会がある。施設内研修の場において伝達し周知している。全てを理解しているとはいえないが、虐待の有無に関しては注意を払いながらケアに努めている。	○	順次、施設外研修会に参加を促していく。また、施設内研修会でも「高齢者虐待法」について学ぶ機会を設定する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		継続し対応していく。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	入居者様の言動をより一層観察し、どんな些細な事でも報告書をあげていく。職員間で周知徹底、共有し日々のケアに活かしていく。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	○	継続し対応していく。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	ご家族の意見や要望がまだまだ少ない状況である為、信頼関係を構築し雰囲気作りに努めていくと共に施設側からも働きかけをしていく。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	運営者、管理者との個別面談の機会を設ける。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		入居者様に支障が出ないように、適切な人員配置を行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	必要に応じて職員異動を行っているが、入居者様のダメージを極力少なくする為に職員同士で引継ぎを行い、また入居者様にもきちんと説明、挨拶をし交流を絶やさない様にしている。他職員もフォローに入りながら積極的に関わるよう努めている。離職者に関しては入居者様の心身状態に応じて説明している。	○	引継ぎは行っているが、入居者様各個人の細かいケア内容までしっかりと伝達されていない事もある為、当事者職員のみでなくリーダーや他職員からも伝達していく必要がある。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じた外部研修に積極的に参加している。施設内研修をほぼ毎月実施し、外部研修発表や勉強会などを行っている。内外研修ともレポートを提出し自己啓発に努めている。		施設内研修を毎月開催し、知識・技術向上を図る事を職員一人ひとりが認識する。
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で交流を図っており情報交換を行っている。個々のネットワーク作りができるよう努めている。管理者は県中・南グループホーム研修委員として活動している。	○	職員一人ひとりが研修に参加する事の目的を認識しネットワークを広げられるよう努力する。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	事務室をしきり、休憩室を設けるなど環境づくりに取り組んだ。また、法人親睦会などで職員一人ひとりの意見や考えを聞く姿勢をとっている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は毎週施設に訪れ、また管理者を通じて職員の状態を把握している。外部研修会などへの参加する事により各自向上心を抱いている。専門的立場からの指導、助言があり不安の解消、知識の向上に繋がっている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)	/	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活において、教え教えられる関係作りが出来る。行事や農園等を一緒に行いながら昔ながらの方法など教えて頂いている。ご本人様の心の思い、不安等を日々の生活の中から感じ取れるよう会話、行動の把握に努めている。	今後も継続し支えあう関係作りを築く。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人から電話連絡要望時、全スタッフが対応できるようにしている。面会時にはひとりの職員のみ状況報告するのではなく当日出勤者全員がご家族様と関り報告できるよう努めている。	○	ご家族様の協力の下、一緒に外出する機会を増やしていきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事等に参加して頂けるよう呼びかけを行っている。入居者様の誕生日にはご家族様も来訪していただけるよう取り組んでいる。ご本人とご家族様の関係に配慮しながら両者の思いを受け止め相互理解に努めている。	○	行事等にできるかぎり参加して頂けるよう働きかけの継続。外出、外泊の機会が増えるよう支援していく。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、利用していた事業所へ足を運び、または通信手段を用い関係が断ち切れないよう支援している。		継続し対応していく。
31 ○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	意思疎通困難な入居者様の会話などは職員が間に入り交流援助を行っている。調理や掃除など一緒に行いながらコミュニケーションが図れるよう声かけに努めている。		継続し対応していく。
32 ○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後、関わりが必要なご家族様に対して、いつでも相談可能な体制であることを伝えている。		継続し対応していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話やその人の行動から発する思いや意向をくみ取り把握するよう努力している。	○	意向や思いは常に同じとは限らず、些細な変化、言動を見逃さず心身状況をきちんと把握し本人の意向に沿えるよう努めていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時、ご家族様や知人などから話を伺ったり、ご本人から昔の様子が伺える場面設定に工夫し生活歴の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の記録を重点的に書き留める事により、一人ひとりの生活リズムの把握に努めている。総合的な把握に努める為申し送りを徹底している。	○	状態変化が見られたときには、原因・背景を探りその人らしく生活が送れるためにどうあるべきか職員全員で考えていく。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント・モニタリングを定期的実施し、ご本人の言葉や行動からその人の思いをくみ取り、またご家族様の意見や主治医意見も取り入れ職員全員で話し合い介護計画を作成している。	○	職員個々にセンター方式を熟知し、入居者様本位の視点にたち情報収集に努めていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを実施している。状態変化時はご本人、ご家族様他、関係者の意見・要望を取り入れながら計画作成している。		継続し、ご本人本位の計画作成が行えるよう努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	○	記録の重要性を全職員が再認識する。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	○	地域の消防団体などに災害時等に協力していただける様働きかけをしていく。
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		継続し対応していく。
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	○	地域の認知症高齢者の支援、具体策を検討し協働しながら地域住民への理解と協力が得られる体制作りに取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		<p>ご本人の状態にあった適切な医療受診ができるよう支援していく。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45			
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>入院時、退院時に入居者が安心して生活が送れるよう継続的な支援ができるよう努める。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>看取り介護について定期的に学ぶ機会を設ける。外部研修にも参加し、終末期がどのようなことなのか職員一人ひとりが考え実践していく。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>同上</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事例はないが、そのような状況に置かれた場合は、適宜対応できる体制をとっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけや対応については、極力配慮しながら行っている場合によって配慮に欠ける言葉を発している。記録の整備は委員会が中心となり管理保管している。	○	自尊心を傷つけない言葉かけを意識し自分の立場に置きかえて行動する。職員同士で言葉や行動を点検しスキルアップが図れるよう努めていく。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者様の状態を見極めながら、選択肢を多く提供する事で自己決定できるよう支援している。		継続し対応していく。
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・入浴など、ご本人のペースで流れている。出来る限り入居者様のペースが崩れないよう努めている。		継続しご本人任せのタイムスケジュールを実践していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	その人らしさが出せるよう衣類購入はご本人に選んで頂いている。長年愛用していた化粧品等も購入しおしゃれができるよう支援している。また理美容店にはご本人が望む店舗へ出かけている。		継続し対応していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>行事食や旬の食材を用い季節を感じ取って頂けるよう取組んでいく。外食の機会をもっと増やしていく。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>継続し対応していく。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		<p>継続し対応していく。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		<p>継続し対応していく。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		<p>継続し対応していく。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>		<p>張りのある生活が送れるようその時、その時の状態を見極めながら支援していく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	基本的に施設側で管理している。買い物時はご本人にお金を渡し支払い出来るよう支援している。ご家族様承諾の上で小額のお金を持参されている方もいるが、日常的には使用されていない。お金を持つ事で安心感のある生活が送られている。		状態を見極めながら支援して行きたい。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	買い物・散歩・畑仕事等、日常的に外出援助を行い外気浴を行っている。ご本人希望により外食したり、馴染みの場所に出かけたりしている。		今後も外出する機会を増やし、心身の活性化を図って行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	行事で花見や紅葉狩り、温泉など取り入れている。ご家族様と外泊や外出ができる支援をしている。		今後もご家族様と外出や外泊ができるようご家族様との連携を図っていく。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	必要時や要望があれば電話のやり取りをおこなっている。馴染みの方との関係が途絶えないよう通信の援助を行っている。		継続し対応していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	面会室は設けていないが、ゆっくりとくつろいでいただけるよう配慮している。		訪問者と入居者様がゆったりと過ごせるよう雰囲気をもたせよう努めていく。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一部の職員が研修会に参加。全職員に周知し拘束のないケアに取り組んでいる。拘束はないが、言葉による拘束について一人ひとりが考えながら実践に挑んでいる。	○	「言われて嫌な言葉」や業務優先の言葉かけをしない。また職員同士でも意識しあいながらスキルアップを目指す。順次、研修会への参加し実践に結び付けられるよう取り組む。




項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		<p>安全に配慮しながら、現状を維持していく。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		<p>入居者様の安全が確保されるよう状態に応じた対応策を検討していく。</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		<p>継続し対応していく。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	<p>ご本人の身体状況の変化をいち早く察し、危険の予測・回避ができるよう取り組んでいく。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>定期的の実技・演習・勉強会を開催していく。順次、外部講習会や研修会へ参加し、危機感を持つようにする。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>地域の協力がスムーズに得られるよう継続し働きかけを行っていく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	個々の身体状況の変化を把握しながら、起こりえるリスクについてご家族様に説明し対応策をご家族様と共に検討している。	○	個々の身体レベル・理解度等を把握しご家族と協働しながら自己を未然に防げるよう対応していく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者様一人ひとりの体調の変化に留意している。日々の状況を確認し、変化が確認された場合は、NsやDrに報告し指示を仰いでいる。また職員間でも情報を共有するよう努めている。		継続し対応していく。
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイル作成し、服薬内容や副作用について全職員が把握し、病状変化の確認に努めている。		継続し対応していく。服薬ミスが発生しないようルールを守っていく。
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便困難者にはNSによるコントロールが行われている。予防策として、朝・夕の体操の他、日中の活動を多く取り入れている。また、食事内容や水分量も把握しながら便秘による不快感の軽減に努めている。		継続し対応していく。
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きの促しを徹底している。ご本人の能力に応じて支援している。	○	継続し対応していく。口腔ケアの内・外部研修会に参加し口腔内清潔保持の重要性を学んでいきたい。嚥下体操を一日一回取り入れていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の把握を徹底している。個々の状態にあわせ好みの飲み物やとろみをつける等の工夫をしている。		継続し対応していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがい方法を見やすいところに掲示し食前、外出後、排泄後手洗いの徹底を行っている。使用した調理などに使用した食器類は毎食後、消毒している。	○	マニュアルを作成し全職員が閲覧できるよう取り組む。
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	給食委員を中心に台所に関する管理を徹底している。賞味期限には充分注意し新鮮な食材が提供できるようにしている。		継続し対応していく。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口には、手作りの看板を置いてある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じ取っていただく為に、毎月入居者様と壁画を作成し廊下やリビングに掲示している。リビングに棚は入居者様がいつでも好きな時に使えるようにしており、居心地良く暮らせる工夫に努めている。		継続し対応していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様個々にそれぞれの場所がある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		継続し対応していく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		安全に配慮しながら、個々にあった生活環境を整えていく。
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		その時、その時の状況に応じた環境設定をしていく。
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		継続し対応していく。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他( )
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他( )
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他( )
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他( )

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない <input type="radio"/> ⑤その他 ( )
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない <input type="radio"/> ⑤その他 ( )
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない <input type="radio"/> ⑤その他 ( )
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない <input type="radio"/> ⑤その他 ( )

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- \* 入居様が笑顔で過ごせるよう、時には家族となり、友達になり「ぶなの森」の由来のように「暖かく包み込む」ケアを心がけている。
- \* 「食」に関して、委員会を中心としバランスに配慮しながら、行事食や日々の献立作りが行われている。買い物、調理、片付けと食への意欲が低下しないよう入居様と共に実施している。
- \* 母体が医療法人であることから、入居様、ご家族様、職員に安心感がある。
- \* 月1回、施設内研修を開催、段階に応じ外部研修会へ参加しており、職員個々のスキルアップが図れるよう挑んでいる。